

# 人口減少期における 砂防・地すべり対策事業の 勉強会について

くりはら じゅんいち

栗原 淳一

(一財)砂防・地すべり技術センター  
専務理事

さかい のぶあき

酒井 敦章

(一財)砂防・地すべり技術センター  
総合防災部 専門調査員

人口減少について皆さまはどのように受け止めていますでしょうか。今回、この人口減少をテーマに今後の砂防事業はどうあるべきか、当センターに出向いただいている関係各社の皆さんと勉強会を4か月間にわたり行いましたので、その概要を御報告させていただきます。



この勉強会を開催しようと思った理由は、人口減少の影響は砂防事業の主たる現場である中山間地で顕著になると思われるので、砂防としてこの社会変化に対しどのように対応すべきか検討しておく必要があると強く感じたからです。難しいテーマですから、今回の勉強会だけで結論を出すというよりも、今後も様々な組織で議論し、選択肢を用意することが大事だと思います。従って、勉強会のメンバーには、幅広く意見を述べてもらい、結論を一つに絞らない、むしろ出された意見を記録に残すよう努めました。



さて、人口減少を議論するには、人口減少がどのように起き、進んでいるのか実態を知るこ

とが大事と考え、幾つか解説本を読みましたが、これだという納得できるものはなかなか見つかりませんでした。そんな中で、東京都立大学の<sup>あいば しん</sup>饗庭 伸先生の『都市をたたむ』を読み、納得できるものに出会いました。以下、饗庭先生の「論理」を紹介します。一つ目は、人口拡大は中心から外側に広がるのに対し、減少期は外側から縮小するのではなく至る所で少しずつ、ジワジワと進み集落がなくなっていくというものでした。いわゆるスポンジ状になっていく、言い換えると、ある日突然集落が一気になくなるのではなく、保全対象の人家があちこちで少しずつ減っていくというものです。また、世間では人口減少に伴いコンパクトシティが注目されていますが、先生はコンパクトシティは簡単ではなく、スポンジ構造を前提とした現実的なシナリオで目指すべきだという主張です。これが二つ目です。



一方で、気候変動が原因で豪雨は今後益々激甚化していくでしょうから、人家は少なくなりながらも、豪雨が頻発する状況が続き、土砂災

害対策を講じていくということが勉強会の前提かなと思い、メンバーに説明し議論を進めていきました。



しかしながら、今年は新型コロナが発生したため勉強会は最初から苦難に遭遇します(笑)。開始が2か月遅れ、6月からの開始となりました。オンラインで参加する地方の方もおられ、会場も砂防会館をお借りしたのですが、議論がしにくい教室スタイルで行わざるを得ませんでした。そういう意味では消化不良が起き、十分な議論に至らなかったかと思っております。



勉強会は毎回各社からプレゼンをしていただいた後に討論、これを繰り返していきました。終盤は、論点を整理しメールで意見交換する一方、アンケートも行い意見を聞いていきました。行政的な性格が強いテーマであるし、まちづくりとの連携も考える内容ですから、砂防計画や構造計算の業務に日々追われている皆さまからすると、戸惑う部分もあったと思います。その代表例が移転です。移転は、砂防事業ではほとんど扱わない施策です。移転がどのような事業で行われるのかご存知ない方も相当数いらっしゃるでしょうが、想像力を高めていただいてご意見を多々いただきました。実は、人口減少を議論するのにこの「想像力」が大事であると今回感じました。何しろ明治維新以降一時を除けば、これほどの人口減少を迎えた経験はなく、どのような事態が生じるのか詳細は誰も分かっていないからです。従って、この想像力を振り絞らないと人口減少の議論は停滞してしまうように思いました。ただ、この「想像力」は砂防をはじめとした土木関係者は得意のはずと思っています。何故なら、ここに砂防堰堤を作ったら水や土砂の流れはどうなるだろうと、常に想像しながら仕事をする性格の分野ですから。つまり、想像する力を持っていれば、人口

減少に関する議論のかなりの部分は解くことができるように思いました。



今後の人口減少に対して、どこまで砂防事業で中山間地の生活基盤を守っていくかという議論になると、今度は「感性」が大事になってきます。想像だけでは決めきれない世界だからです。これは個人のセンスがものを言う世界ですから、他人の意見も大事になります。それらに自分の想像力を付け足して意見を作り上げる思考になると思いました。



さて、勉強会で最も議論していただきかった論点は当然ですが、「砂防事業の進め方は今後どうあるべきか」です。この点については、まとまった部分と意見が分かれた部分がありました。今回は勉強会ですので具体の結論までお示しはしませんが、下水道事業では既に人口減少を地域ごとに評価して事業の進め方を工夫しているようです。時代の変化の中で砂防がしっかり発展するよう引き続き努力してまいりたいと思っています。



写真-1 勉強会の開催状況